

# としょかんだより 2月



さあ、いよいよ今年度も残すところあと2ヶ月になりました。何があっても時間は待つてはくれません。やり残したと、それぞれの目標に向かって今何をしなければいけないかをよく考えて過ごしましょう。

**“おには～外！ふくは～うち！”**

2月3日は節分の日ということで今月は鬼に関する本をセレクトしています。どんなオニが登場しているのでしょうか？ユーモアのあるオニ、怖いオニ、心の優しいオニ……。そしてみんなの心の中に潜んでいるオニはどんなおにですか？



## 【オニじゃないよおにぎりだよ】

おにぎりが大好きな三匹のオニが人間に美味しいおにぎりを食べさせてあげようと人間のすむ町へでかけていきます。



## 【泣いた赤おに】 作者：浜田廣介

1893(明治26)年～1973(昭和48)年  
山形県出身の童話作家で「日本のアンデルセン」とも呼ばれています。日本の児童文学の先駆的存在で作家人生50年の間に約1000編もの童話を世に送り出しました。「りゅうの目のなみだ」「よぶこどり」「むくどりの夢」「こりすのはつなめ」「こりすのおかあさん」「たぬきのちょうちん」など多数……



## 【それからのおにがしま】

みなさんがよく知っている【ももたろう】に登場するオニのその後のおはなし。おにがしまでは節分に【ふくは～うち、おに～あ～そぼ】といって人間の子どもたちと遊んでいたそうですよ。



## 【すみ鬼にげた】 作者：岩城範枝

すみ鬼のモデルは、奈良にある唐招提寺の金堂の四隅にいる、木彫りの小さな鬼だそうです。唐招提寺が建てられた当初、ヒノキで作られた三体の鬼は必死の顔つきをしているそうですが、その後江戸時代にマツの木で作られた鬼は、なんだか力が抜けているようにみえるということです。その鬼を見ているうちに生まれたのがこの本です。読んだ後、唐招提寺のすみ鬼に会いに行きたくなりますよ。



今年は北北西を向いて恵方巻きを食べるといいらしい……



## 【鬼】

鬼の抜け殻を見つけた人間の与助は鬼の抜け殻を着こんで村の人々をおどし、食べものやお酒を盗み出し、どんどんなまけた生活を送っていきます。その後与助が鬼の抜け殻を脱ごうとしても逃げなくなってしまいます。

## ☆☆☆ 本のおたのしみ袋 ☆☆☆

図書委員と奈波先生が選んだお楽しみ袋のコーナーができました。  
2月いっぱいまでかいられます。中にはみなさんが読んでくれるといいな～と1冊1冊丁寧に選んでいます。  
途中、中身の本を入れ替えようと思いますので、楽しみにして下さいね。  
どんな本が入っているかは封筒を開けてからの  
**お・た・の・し・み♡**

## 移動図書館が渡嘉敷島にやってくるPart2!

「空とぶ図書館」に名前が変わりました！  
またまた渡嘉敷にたくさんの本がやってきますよ～♪  
期間：2月8日(水) PM13:00～PM19:00  
2月9日(木) AM9:00～PM13:00  
場所：渡嘉敷村中央公民館  
貸し出し期間：3月9日(木)まで  
一人15冊まで借りられます。  
※連絡※  
返却場所は学校図書室または教育委員会までお願いします。







